

令和4年度第1回青森市総合教育会議概要

1 開催日時 令和5年1月10日(火) 15:40～16:10

2 開催場所 青森市民図書館8階会議室

3 出席者

市長	小野寺	晃彦
副市長	能代谷	潤治
教育長	工藤	裕司
教育委員	池田	享誉
	土岐	志麻
	天内	博康
	齋藤	美鈴
	大嶋	憲通(欠席)

4 事務局

教育委員会

教育次長	大久保	綾子
総務課長	金澤	敦
指導課長	角田	毅
総務課主幹	今村	剛志
総務課主査	山田	顕世

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 案件
意見交換について
- (4) 閉会

6 会議の概要

(市長)

早速意見交換をさせていただきたいと思います。今回は事前にテーマ、お話いただく内容を頂戴し、またご質問いただいたものに意見交換をする形で進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(池田委員) <テーマ：大学生との交流について>

青森公立大学の大学教員として大学生たちと教育活動を行っている立場で、教育委員をやらせていただいていますし、小・中学生と大学生が何か交流する場面があれば、小・中学生の進路とか将来のこととかを考える上でもプラスになるのではないかと、思います。

コロナ過の中で、具体的な内容はありませんでしたが、本学は地元の大学で、もともとの小・中学生が大学生としてかなり進学していますし、今後コロナが落ち着いてきた中で、「はたちの集い」など出身中学に集まる機会があると、自分が生まれ育った地元の中学校、あるいはその前に通っていた小学校というところに、大学生として顔を出すことで、昔のことを思い浮かべて、今の小・中学生たちに対して自分がその年代だった時に悩んでいたことや、今どのようなことを考えて活動しているかということ、例えば夏休みの宿題や工作など、何かの課題をやるのに一緒に活動しながら、意見交換とかコミュニケーションを取るとお互いプラスになるのではと思います。

できそうなところから小規模で、お試しで、というのには協力できるかなと思って提案させていただきます。

(市長)

「はたちの集い」がコロナ過ということで、去年からになります。分散開催をさせていただきました。今年の民放のテレビのアンケートの中で、大きい規模がいいという回答や、中学校以外のほかの学校のお友達にも会いたいというご意見もありますけれども、一方で、やはり中学校に戻ると、それこそ「はたちの集い」でのアンケートやニュース報道を見るとタイムスリップしたみたいで楽しかったとか、他の中学校の友達も会いたいけど、でも中学校にフォーカスして集めてくれるのもいいかな、というような感想もあったりして、地域で自分の中学校でやるというのもコロナ過だからこそできたことですが、地域に大学生をはじめ子どもたちが帰ってくるのは非常に意味のある事だと思っています。

かつては文化会館大ホールで開催していたときは、いろんなアトラクションを行い最後まで飽きないように工夫したりというのが正直なところで、それは本当の成人式ではないと思うので、むしろこうした形の方が定着すればいいのかなという風に私はいい方

に受け止めております。

池田先生には大学生が地域に帰るところで大変ご協力いただいておりますので、「はたちの集い」のみならず、今作っている操車場アリーナのプロジェクトのモデルケースを作るときも、小・中学校と大学生との組み合わせもありだなと思ったり、おっしゃったとおり子どもたちが大学生のお兄さんお姉さんに教えていただくこともあるかなと思ったりもございますので、そうしたアイデアをまた、いろいろな企画だったり、地域に帰るイベントの時にいせればと思つて拝聴しておりました。

(教育長)

今教育界に求められているのは、やはり「生きる力」というものだと思いますけれども、「生きる力」というのは、なかなか教室の中だけでは育成できない、社会の中で生きていく力ですから、やはり子供たちを社会に出していくということは、とても重要なことだと思います。

小中連携を行っていますが、それはそれで価値のある事ですが、小・中学生がちょっと尊敬するあこがれの存在である大学生、ちょっと遠い将来の自分をみるかのような形で交流するという事は、非常に意義のあることだと思つています。

既にいろいろな大学との交流は行われているのですが、やはりコロナのせいで若干少なくなつてきているということもあります。

ジュニアグローバルとか、本市のグローバル授業は委員の皆様にはもう紹介してございますけれども、中央短期大学の皆さんと交流してございますし、天内委員のところの大学とはかつて大学生が近隣の小・中学校に部活を教えたり、今年度も東中学校に勉強を教えに行ったという報告も受けていますけれども、今後そのようなものが増えていくことが、やはり子ども達にとってはとても意義がありますので推進していきたいと思つています。

(土岐委員) <テーマ：小・中学生が市政に興味を持つ事業について>

やはり大人の姿を子どもたちになるべく見せてあげたいということで、例えば「はたちの集い」のときも、市長と写真を撮るのにみんなすごい列を組んでいて、自分が尊敬する大人にやっぱり少しでも近寄りたいたいという思いがあると思うので、特に市の政といひますか、そういうところをなるべく早いうちからこういうことを大人が、街の活性化のためにやっているとか、そういうのを見せてあげたいと思ひます。

「はたちの集い」の分散開催もそうなのですが、いろいろな場を提供してあげたくて、例えば今日のICTコンテスト、体育ができない子どもに対しての場として別な空間を与えていると、そういうところを選んでいただきたいので、「はたちの集い」も大きな会場でやったとしても、これまで不登校で、中学校の子と会いたくないという人の場をまた設けてほしいし、その選ぶポイントをいっぱい作つてほしいので、今まで

市のホタテ業者とかは行ったと思うのですが、市議会とかはなかなか難しいのかとも思いますが。

この先もコロナ過でも活動していく中でやれたらいいなと思うので、そういう場を提供していただければと思います。それがもちろんICTであってもいいと思います。

(市長)

青森市では、委員ご存じのとおり「こども会議」を実施しておりまして、市議会の議場を借りて発表するというのが一番大きいプロジェクト、それ以外にも地域で、浪岡のアップルヒルで活動したり、地域ねぶたに参加したりいろんなことをしていますけれども、ほかの町との交流を子ども会議同士でしていますが、私も議場にお邪魔していますし、副市長もいますし、みんないる中で、発表してまちづくりについて語ってもらうと、大人が答弁する、答えるということをもものすごく大事にしています。

あのような場所で堂々と発表する、しかも我々が答弁し、それを次の年にこういう風にいたしましたよ、と必ず返すということが続けていますので、そういったことが子どもたち、小学校・中学校・高校までですので、小中高の子どもたちにとってきっと実になるすごく大切な経験だと思って続けさせていただいています。

それ以外にも小・中学生が青森市の企画とかイベントに参加する機会をたくさん作っていきたいと思いますので、委員からも折角頂いたご提案、また活かせる機会を増やしていきたいなと思います。

(天内委員) <テーマ：ICTコンテストについて>

私は、今日のICTコンテストを見てですね、素晴らしいなと思いました。

やはりあのプログラミング、ICTを使うとなると、プログラミングの授業をするということを当初は危惧したのです。

ところが今回の発表は、すべて授業で道具としてICTを使うという形でやっていたので、今後もそういう形で、あくまでも道具として使っていただければ、もっと良くなっていくと思います。

(市長)

ICTコンテストの発表の中では「スクラッチ」というプログラミングのジュニア用のソフトを使った発表もあって、それもまた一つの大変分かりやすいというかチャレンジしているという感じがすごく伝わってきたのがよかったなと思っていて、そういうプログラミングに捉われずやっていくのは青森市の特徴ですし、これからも大事にしていきたいと思います。

ICTを日常使いできるようなレベルまでもっていければと思って、今日表彰された中にもみんなが使えるように、教育長賞でしたか、100の皆さんにカスタマイズして

もらえる、テンプレート100、ほかの先生に差し上げるというプロジェクトもあったりして、そういう意味では普段使いが如何にしやすいかをみんな工夫してくれているというのは素晴らしいことだと思いますので、ぜひそうした形で、まさに天内先生おっしゃったように工夫していきたいと思います。

一方で、情報の学科ができてプログラミングをどう教育していくかというのは、またそれはそれで非常に悩ましいところではございまして、また天内先生や大学の方にもご相談しながら、プログラミング情報教育を今度どうするか、全国でも大変苦労しているようですので、何とかその工夫をしていかなければならないな、と逆に思います。大変ありがとうございます。

(齊藤委員) <テーマ：運動部活動の地域移行の方向性について>

先ほど大学生の方々が中学校等に指導に行かれているという話が出てきましたけれども、実際私も自分で中学校に勤めておりました時に切り離せなかったのも部活動の指導でした。

今、全国的に文科省のほうからいついつまでという話が出ていますが、大変現場としてはありがたいことだし、そうしたいと思ってもいざ試みようとしたときに地域に人材がいるのか、学区内となるとそれはまた厳しい。学区外となるとそれはそれでよその学校との競合もあり難しい。

教育委員会だけでも、学校だけでも地域に移行するというのは大変難しいことなんだな、というのが今回学校訪問に行ってつくづく実感いたしました。ですので、市として、行政としてもどういった形で協力していただけるのか、ちょっと大きな話になるかとは思いますが、なんとかできたらいいなと思って今回書かせていただきました。

(市長)

部活動の地域移行自体は青森市のみならず、青森県全体で今課題になっていて、スケジュールも若干変更があったりして、渦中の問題だと思います。教育長も何度も議会で答弁されていますが、改めて教育長から青森市の状況についてお願いします。

(教育長)

青森市も全国と同じ状況にありまして、齊藤委員が在籍されていた学校もそうですが、単独では団体競技がなかなか組めないということ、もう一つは子どもや保護者のニーズが多様化してきていて、オリンピックでもスケボーやサーフィンだとかが金メダルを取るんですけども、学校の中ではそういう多様なニーズをまかなえることができないということ、また今おっしゃったように、多忙化解消ということ、この3つがあって提言が出されたということですが、提言では来年始めて、再来年本格的にやって、令和7年に完全移行ということになっているんですけども、文科省ではあまり急がなくて

いいよ、ということも最近言い始めていますが、県のほうでこの3月に推進計画を出すことになっています。

したがって、青森市としても協議会を開いて、多くの方から意見をいただいて、その中に当然保護者も入ってますけれども、保護者の思いや先生方の思い、競技関係者の思いを聞きながら、それを無視したりすることなく、地に足をつけた取組を進めていきたいなと思っています。委員の皆様にもまたお知恵を拝借することがあるかと思いますが、現状ではそういう形となっています。

ただ、青森市の先生方も、今日のICTコンテストでもわかると思いますけど、子どもたちのことを考えて、一生懸命まだ中学校では部活やっていますので、それを上手な形で移行させていきたいなと思っているのが現状です。

(市長)

ありがとうございます。

齊藤委員に多忙化解消の観点からも触れていただいたのですが、青森市も先ほどのコンテストの冒頭で教育長が話してくださったように、校内支援システム、いわゆる先生方のICT化もご要望いただいたときに、ある意味当たり前前でしょうということで、すぐやりましょうという話をさせていただきました。

あとは大きいところでは給食費を無償化したものですから、親御さんから感謝の声をいただくのですが、先生方からも「先生がお金の勘定をするのが正直…」といったことがあったので、お喜びの声が意外と強いな、と感じています。

部活動の地域移行も避けられない観点ですし、自分の学生時代を振り返っても学校の先生は土日も頑張っていたので、多忙化解消の観点でも地域が受け入れていく形は必ず必要だと思うのですが、文科省が期限を後ろに倒す前から、3年以降と決めていた頃から当時教育部長だった立場の教育長にも、強制的にやるのではなくて地域が受け入れられる形で進めてください、ということは青森市でお願いしてきました。

一律3年でなんとしてもやりきるんだというスタイルではなくて、地域のニーズに応じて、でもやらなきゃいけないことは確かなので、やっていきましょうというスタンスで青森市はやっていこうと思いますので、やっぱり最後は地域で子どもたちを見るというのは、もともと子どもたちを地域で育ててきた国ですので、本来の形に帰ってるんだなと私は思いますので、地域に無理なく、でもきちんとやっていくというスタンスで臨んでいきたいと思います。

委員としてまたご指導いただければと思います。

いただいたテーマで一巡したところでございますが、今日はICTコンテストに合わせて教育会議を開催させていただきましてありがとうございます。

これからも引き続き青森市の子どもたちのために、お力添えをどうぞよろしく願います。

(金澤課長)

ありがとうございました。

以上を持ちまして、令和4年度第1回青森市総合教育会議を終了いたします。

(16:10 閉会)